

平成29年度

第2回上田市総合教育会議(平成29年12月26日) 議事録

1 開会

2 母袋市長あいさつ

皆様、お疲れ様です。歳末を迎え、慌ただしいことと存じますがよろしく申し上げます。今年度第2回目の総合教育会議に御参加いただき、感謝申し上げます。子どもたちへの教育、生涯学習等々、委員の皆様には幅広くご活躍いただいております。

折角の機会ですので、市政の展開について2点ほど紹介させていただきます。

まず、ラグビーワールドカップ2019日本大会の開催に向けた取組につきましては、報道等でご承知おきのことではございますが、この10月に、かねてより交渉しておりましたイタリア共和国のラグビー連盟と、事前チームキャンプ(トレーニングキャンプ)実施に関する合意書を取り交わすことができました。運良くトントン拍子で事が運びまして、短期間での合意到達となりました。

折角迎えるイタリアナショナルチームでありますので、最高のパフォーマンスを発揮してもらうために、地元として「おもてなしの心」でお迎えしたいと考えており、市民の皆さんからの協賛的な思いをいただきながら取り組んでまいりたいと考えています。

単に彼らがトレーニングをするというだけでなく、小・中学生と選手による交流事業のほか、イタリアの文化に接する機会を設け、前から言っていますがスポーツと文化の融合が何かできないかなという思いも込めながら、更に経済的な面においても、パスタを食べましょうということだけでなく、繋げていけないかなと思っております。そして、イタリアと日本の関係がより近く感じられる、それが市民にとっても大変重要なことかなと、こんな思いでありますので主体的に市として進めてまいります。市長部局と教育委員会との連携も非常に多くのものがあり得ると思いますので、よろしく願い申し上げたいと思います。加えて、イタリアのムードあるいはラグビーのムード、これを盛り上げるべく、街なかを中心に市内あちこちにイタリアの国旗やラグビーを感じられるようなデコレーションを施すことがいいのではないかという思いもございますので、そういった展開を含めて今後よろしく願いしたいと思います。

また、明日27日に起工式を予定している、神川地区における神川統合保育園・神川地区公民館整備事業についてでございます。上田市としても、保育園と公民館の複合施設というのはもちろんのこと初めてという挑戦でもございます。これも単に、まちづくりの活動拠点を作るだけではなく、世代を超えた交流の場であってほしい。そして、地域ぐるみの子育ての場にもなり、さらには生きがいくりの場として、地域の皆様に愛着を持ってご利用いただけるよう、オープンまでの間、運用面での検討を深めてまいりたいと考えております。

さて、本日の会議ですが、次第に書かれているとおりの2点でございます。来年度から実

施となる「英語教科化について」、またこの12月から新たな試みとして取り組んでいる「市立美術館の連携事業について」の2点について、御協議をお願いしたいというものです。

折角の機会ですので、忌憚なき御意見をいただき、次なる展開に進めたいと思います。

以上、簡単ではございますが私からのあいさつとさせていただきます。

3 小林教育長あいさつ

本年第2回目の総合教育会議でございますが、教育委員会といたしましても、様々な面からご協議をいただけるということで、大変有難く感じております。特に本日は、「子どもを育てる」という観点からご協議いただけるということで、期待申し上げるところであります。

学校教育につきましては、様々な課題がございますが、最近特に校長のマネジメント能力が大きな注目を集めているように感じているところです。例えば、教員の勤務時間につきましても、しっかりと把握をしていながら適切な対応を取ることが求められておりますし、特に超過勤務時間を一定の時間の中でしっかり収めていくということは、喫緊の課題と考えているところでございます。

また、学校での案件に関わること、教員の不祥事への対応、さらには、地域コミュニティにおける学校の役割に関するマネジメントにつきましては、信州型コミュニティスクールの進展とともに必要とされるものであると感じているところでありますが、特に本日のテーマに関しましては、新学習指導要領の実施に向けての教育の機会均等、学力の保障という観点から、カリキュラムについてを一つのテーマとして、教育委員会としてはこの先行実施を議題としていただいているところでございます。

特別な教科、道徳の実施も来年度から始まります。指導要領のねらいを達成するとともに、未履修であるとか履修不足が起こらないようにしていかなければなりません。これは教育の機会均等の立場からも当然のことでございます。最終的には学校長のマネジメントに関わる部分も大きいわけではございますが、本日は様々な角度からご協議を賜りまして、来年度の先行実施に向けた参考にさせていただければと考えているところであります。どうぞよろしくお願いいたします。

4 会議事項

(1) 英語教科化への対応について

高木学校教育課長

資料1により説明

小池学校教育課指導主事

ビデオ上映により、英語教科化推進委員会による小学校における授業の実演の紹介
(7校の小学校3・4年生の授業の様子)

高木学校教育課長

小学校の学級担任が児童と相互に信頼関係を築きながら授業が進めていけるよう、市教

委としてこれからも指導してまいりたいと考えております。

小林教育長

一点補足をさせていただきます。

資料1の「総合的な学習の時間数を減じた年間15時間」とは、必ず英語に使わなくてはならないという意味ではなく、総合的な学習に使っても良いということでございます。今のところ、そのような学校があるという話は、聞いてはおりません。

小野塚政策企画部長

英語教科化に向けた取り組みが既に始まっているわけでありますが、来年度の先行実施に向けた取り組みの内容、それから今ビデオで見た各校の取り組みについて、何かご意見、ご質問はありますでしょうか。

北沢教育委員

基本的に、良い方向で進んでいるといつも感じています。特に、外国語の教科化の推進委員会がうまく機能していると思います。具体的な例で申し上げますと、履修形態を3タイプ提示してもらっていて、さらに校長会や教頭会で説明されています。多分、中学校区毎の小学校でまとまった履修の形態が生まれ、来年度に向け進んでいくのではないかと思います。その点が一番良いと思います。

特に私からお願いしたいのは、資料1の3に教育委員会の支援体制ということで(1)から(8)まで挙がっていますが、(2)と(5)についてです。知り合いのベテランの小学校の先生方に聴くと、不安感・負担感を感じている人が多いです。今日視聴のビデオに出てきた先生方は、ベテランの年代の方は映ってなかったですね。せっかく2年前倒しで実施するのですから、是非市教委は、教科化のための教員研修を、夏休みなどの長期休業中に市内の学級担任の希望者に対して行ってほしいと思います。不安感・負担感を払拭できる工夫された研修をお願いします。

その時に注意していただきたいのが、「ICT機器を活用した授業」と書いてありますが、あまりそれに特化しないでいただきたい、ということです。先ほどのビデオで出てきたように、ピクチャーカードとか、フラッシュカードとか、立体の絵本とか、すぐに提示できるアナログ的なものを使い、まずは指導力をつけ、そのうえでICT機器を使っていくというのが良いのではないかと思います。いきなりICT機器を使うと、中には不適應を起こす人もいるのではないかと思いますので、アナログ教材を使いつつ、時折入れていくのが良いかなと思っています。

2年間で、現場の先生への研修を是非丁寧に行っていたいただけると有難いです。

高木学校教育課長

貴重なご意見ありがとうございます。

2年間に限らず、教員研修は必要と考えておりますので、十分進めていきたいと考えております。

教材の件ですが、英語教育用の消耗品の予算を配当するようにしておりますので、その範囲内で各学校の判断でアナログ教材等を購入いただければと思っています。各学校が自由に使えるように消耗品費を配当しておりますので、十分とは言えませんが対応いただきたいと思っています。

城下教育委員

私からは、感想プラスお願いします。

当初、個人の意見として英語の早期教育はいかなものかと思っていました。日本語で議論する力がないままに英語でどうやって話し合いやコミュニケーションをうまくやっていけるのだろうかという疑問でありました。

公開授業に3～4校参観しましたが、はっきり言って衝撃的でした。若い女性教員の授業は、子どもたちが生き生きと、英語が楽しいという意欲に溢れていました。通常の学校訪問をしたときの授業を受けているときの子どもの表情とはまた別の違う姿がそこにはありまして、子どもたちにはプラスだという確信が持てました。それは、担任が英語の授業を教えるというところに一番意義があるのかなと思いました。児童との信頼関係があるうえで慣れない英語というものを使って先生とコミュニケーションを取り合っている、子どもたちが大きな声で唄って、自分の気持ちを英語というツールを使って発表しているという姿が素晴らしいと思いました。一番感じたところですが、数校見させていただくとベテランの先生ほど今までの経験に乗っかってしまって、「こうやれば良いはずだ」というところが垣間見えた気がしたので、若い先生もベテランの先生も原点に戻って、英語の授業を教えるに当たっては、気持ちを真っさらにしていただいて、自分なりのアレンジを加えて授業をすることが大事だという感想を持ちました。

もう一つは、小学校から中学校というステージがあるので、小・中の連携を取り合って系統的に意識してやっていくことが大事だと思います。

とにかく、教育委員会としての支援体制で進めていただくことはもちろん大事ですが、先生方の負担が増すことがないように進めていただければと思います。

翻って保護者の立場になってみますと、大手の学習教材会社はオンラインで英会話を学べるシステムなどを産み出しています。教科になって成績が付くとなると、お金に余裕のあるお宅はデジタル教材をどんどん購入することができますが、保護者の経済的な差が英語教育においても格差に繋がることないように取り組んでいただきたいです。

小野塚政策企画部長

ご感想と、課題ということで受け止めさせていただきます。

寺島教育委員

私からは2点お願いします。

小学校の英語教科化ということで、教育支援プランの重点項目にも載っていますが今年度は先行実施ということで校長会や教頭会でも議論になっています。教頭会では分科会に入らせてもらってお話を聴きました。それから、いくつか公開授業を見させていただきました。

その中で、現場の先生方の共通の課題だと思いますが、勤務時間ですね。そうでなくても最近、学校現場での時間外勤務が多いとか、働き方改革のことも盛んに言われていますので、どう時間設定をするかが大事だと思います。英語教科化の推進は良いのですが、根本的に学校現場での時間外勤務削減に教育委員会として取り組まないといけない。現場での負担軽減策を2年間で検討していく必要があると思います。

教育課程編成について、各小学校の実情に合わせて学校長が決定するというのですが、2年間は試行で良いと思うのですが、市教委としてどうするかを決めておき、一つの方法に収れんさせた方が良いのではないのでしょうか。校長が替わり、前任校でこのやり方であまうい

ったから、ということで仕組みが変わってしまうのは良いことだとは言えないと思います。校長に任せきりでなく、しっかりと研究したうえで教育委員会として上田市はこうやるのだと示さないともずいのではないかと思います。

2点目ですが、2年間の先行実施ということで、2年間での成果を競うのではなくて、諸課題をどれだけ抽出するか、その課題を本実施の時までにできるだけ見つけておいて、対策を立てるといことが大事ではないかと思います。多分、先生によって学校によって相当差があると思います。その違いがあるままにして進んでしまうと、バラバラになってしまうと思います。教育委員会として課題を見つけて整理し、統一的な授業体制を作るといことが大事だと思います。

小野塚政策企画部長

課題について何点かご指摘いただきました。
浪方教育参事からいかがでしょうか。

浪方教育参事

校長会、教頭会、それぞれの会議において、委員の皆様と一緒に相談をさせていただいて、そして、いくつかの実証授業を見ていただいたわけでございます。

今の寺島委員のお話のとおり、私も正直言って課題が予想の中であまり見えておりません。この2年間というのは、そういう意味で重要な2年間であろうかと思ひます。子どもたちにとって上田市内に差があってはならないと教育長も言いましたが、その課題を見つげながら、やはり上田市はこの方向が望ましいのではないかと、いことを校長先生の代表の皆さんにもお考えいただきつつ、2年間で見つけていきたいと思ひます。良いご示唆をいただきました。

平田教育委員

各委員のご意見と同様になりますか、これまで外国語活動として取り組んできたなかで見えている課題もあると思ひますので、その課題を踏まえて来年度の先行実施に活かしていただきたいと思ひます。現場の先生方の声にしっかりと耳を傾け、どう精査していくのかといことが大事だと考へます。

特に、寺島委員のご意見にもありましたが、先生方の多忙問題、これを何とかしないと、変えないといけないと思ひます。先生たちにゆとりがなければ子どもたちに質の高い教育を提供することはできません。そのため、何をしていかなければいけないのか、煩雑な処理を誰かが担っていく形にするとか、考へていかなければいけないと思ひます。

英語教科化に向けて、担当指導主事、推進委員会の先生方には一生懸命に取り組んでいただいいており、私も公開授業を拝見する中で、子どもたちが英語に親しんでいる様子を伺うことが出来ました。さらに研修を進めていただき、統一した指導力をつけていただきたいと思ひます。

一点お願いですが、資料1の「3 市教育委員会の支援体制 (7) ALTの小学校派遣計画作成」の項目で、ALTの質を上げるといこともとても大事ではないかと考へます。担任の先生の不安感を軽減させるためにもALTやボランティアに入っただく方は重要であり、子どもたちへの指導の方向性が一致するように、教育委員会としても一定の方針を検討していただきたいと思ひます。

小野塚政策企画部長

ありがとうございました。

現場の先生方の多忙感というご指摘がありました。私のほうにも現場の先生からの話が聞こえてくることがあります。やはり新しいことに取り組むということになると、しっかりとした方針を決めてもらいたいという意見があるのと、新たなことが降りかかってくるという気持ちがあるようですので、現場の先生は不安な気持ちを抱えているのだなと思いました。余談です。

教育長から何かありますでしょうか。

小林教育長

これまでにほとんどの観点についてお出しいただいたので、私からは特にございませんが、確かに今回の英語につきましては、今までのものにプラスアルファする形で教育課程の中に乗ってくるものであります。そこに一つ、非常に難しい点がございまして。特に5・6年生の新しい教材を目にして、「こんなに難しいことをやるのか」というのが、先生方の感想です。そういう意味でも少しずつでもやっていかなければ、寺島委員からのご意見にもありましたが、成果を競うのではなく、子どもたちが英語を身近なものとして理解していくためにも、少しずつ、前もって準備していかなくてはならないと思います。今回このような方針は出ておりますが、先生方の多忙感というものも含め、これからの重要な課題として認識したいと思っております。

小野塚政策企画部長

ありがとうございました。

この点で最後、市長からございますか。

母袋市長

まず、隔世の感がありますね。どうしても自分が英語教育を受けていた時と比較してしまいますが、ようやく日本でも遅ればせながらこのような取り組みがスタートするのだと。私は前から言っているとおり大歓迎の立場です。一方で今回いろいろ言われたような現場のことは良く分かりません。いろいろな視点があると思いますので多くは語りませんが、おそらく英語教育が小学校からスタートということになると、この2年間だけに留まらず、やり方を見直す必要に迫られることもあると思います。試行錯誤的というのか、やってみて直すべきところとか、いろいろな対応が必要になってくると思いますのでこれはこれで進めていけば良いと思います。

ビデオを見てみて、総じて子どもたちが面白そうに楽しそうにやっているという印象です。担任の先生が英語の授業をするというゴールがあるようですけど、先生も教えることによって専門外の英語というものをより知りながら、教え方というものを学びながら自ら成長していくということもあるので、これはこれで大事な視点ではないかと思いました。

そして、我々が習ったときのABCから始まって、まずSVC(主語・述語・補語)だのSVO(主語・述語・目的語)とかグラマー(文法)的な話ばかりやっていると、嫌気が差して離れていく人が必ずいるので、ビデオで出てきたようなジェスチャーや動作を交えて、子どもたちの関心を引いて教えていくということが大事なので、冒頭にもあった先生への教育が大事なことだと思います。教育委員会としてみれば、教育の機会均等ということのなかでは、すべからく同じような方法で、現場任せとはいえ、きちんとした教育をしなければいけない。一方で、前からお話ししていることでもあるのですが、保護者や子どもたちの受け止め方にもよります

が、ツールを駆使したい、あるいは塾に行きたい、あるいはもっと向上したい、こういう人は必ず出てくると思うので、そういう皆さんにはどう社会として、行政として対応すべきなのか、しなくてもいいのか、ここも課題になってくると思います。

教えるということになると、当然成績が付くのですよね？

小林教育長

本格実施になれば、2020年度から成績が付きます。それまでは成績ではなく、文章表現でやりたいと教育委員会では考えております。

母袋市長

2020年度からは成績が付くようになると、その辺(親の経済力)が変な差になっても良くないと思うので、教育委員会は教育委員会マターとしてやってもらえばいいのですが、要は市長部局で何かできないかということです。多分、役割として何か工夫が必要だということになってくるような気はしています。地域でどうできるか、地域の人材を活用し、また土日の利用もいずれ考えられるときが来ると思います。そこを避けて通るのではなくて、私としては地域の人材、あるいは土日のあり方、そういったものを求めて巻き込みながら対応していく。

それには、最初から意気込みすぎてもいけないので、一定の教育水準というところに視点を当てて、かつ面白くというか言語に親しむという視点を中心にあり方を考えていくことが必要になるであろうと、このように思っておりますので、併せてこの2年間で思いを巡らせてほしいと思います。

小野塚政策企画部長

ありがとうございました。

いずれにしても、2020年度から教科化が始まるということで、先行して取り組んでいくようになりますので、是非成果が上がるようやっていただければ有り難いと思います。また、市長部局でもできることがあれば一緒にやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(2) 子どもアトリエ関係事業について

滝澤市立美術館長

- ・リーフレットにより上田市立美術館の事業説明
- ・資料2により説明

小野塚政策企画部長

子どもアトリエの活動についての説明でした。前からやっていた事業ではありますが、これまで交通手段がなくて来られなかった園に対しても、庁用バスを融通して来てもらえるようになりました。

感想等ありましたらお願いします。

城下教育委員

質問よろしいですか。西塩田保育園の園児がローラーで作品を描いたとのことですが、作

品は持ち帰りができるのですか。

移動時間の制約上、各園への出張(アウトリーチ)もやっているとは伺ったのですが、実際の例としてはいくつくらいありますか。

滝澤市立美術館長

作品の持ち帰りはできます。

アウトリーチは、昨年度はあったのですが、今年度は受け入れに力を入れたものですから、まだありません。準備中というところです。

北沢教育委員

今のお話に関連して、出張講座や出前講座の機会があれば、またご紹介いただきたいです。交通安全のことなどを考えるととても大変な事業だと思います。一つお願いですが、作品発表の場の工夫をさらに心がけてもらいたいと思います。子どもアトリエの作品展とか、上小児童生徒版画展などをやってらっしゃるのは分かったのですが、たとえば「広報うえだ」の表紙に使うとか、上田駅の構内に優れた作品を掲載する場を設けるとか、大型商業施設とか、もっと言えば、“まちかど美術館”といった形で通りに作品を置くとか、保育園や幼稚園の通り道に展示するとか、折角プロが指導してくれるのですから、発表の場を更に増やしていただけると良いかと思います。

滝澤市立美術館長

サントミューゼの建設中、工事の囲い壁に特殊なラミネート加工をし、園児や高校生の絵を飾ったりしました。そういう経験もありますので、ただ今のご意見も含めて飾れるところには飾っていききたいと思います。街に出ていってアートを飾るというのは、既に実施しておりまして、11月の3連休には紅葉まつりに合わせて海野町を中心に、「マチ×マチフェスティバル」を開催いたしました。ただ、飾っても良いけれど、夜は撤去しなくてはいけないなどハードルが高いということもありました。できるところからやってまいりたいと思います。

城下教育委員

もう一つよろしいですか。

子どもの作った作品がどんどん溜まっていってしまいましたが、デジタル保存ということではできないでしょうか。

滝澤市立美術館長

まさしくデジタルだからできることなのかもしれません。というのは、私の前職は県の信濃美術館でしたが、そこに50年以上前の児童生徒の絵が大量にありまして、返すこともできないし、大事にとっておいたとしてもボロボロであり、廃棄もできないし、ということになっておりました。今までは完全な保管は事実上困難であったわけですが、デジタル情報としては可能かもしれません。

ただしそれは、美術館の役割なのか、学校の役割なのか、家庭の役割なのか、ということがあります。デジタルで保存したとして、それを美術館が投影して、他の親御さんや児童生徒に興味を持っていただけるのかどうか。著作権の問題などもございます。そのようなわけで、美術館の役割であると言うのはなかなか難しいかと思っています。

平田教育委員

質問よろしいですか。

子どもアトリエでこういう活動しています、という放送を上田市行政チャンネルで拝見しましたが、開館から3年経って、子どもアトリエでの活動の情報が本人たちにどの程度行き届いていると考えていらっしゃるでしょうか。

たとえば、こういう活動をしているよということが紹介されたパンフレットが保育園や幼稚園に届いて、先生方から保護者に渡されているのかお聞きしたいと思います。

滝澤市立美術館長

基本的に、幼稚園・保育園に対してはかなり情報を出しているつもりでございます。保育課を通して、様々な案内、あるいは現場の保育士の皆さんには、直接「こんなことができますよ」といった情報提供、更には指導者研修等、多くの先生方においていただいております。そういった手段でなるべく多くの情報を提供しております。特に、「広報うえだ」にはサントミュージアのページが設けられておりますので、逐一情報を載せております。

平田教育委員

ありがとうございます。

小さい時期に、たとえ1回でも子どもアトリエで体験したことは記憶のどこかに残ると思うので、非日常的な体験として継続していただければ有難いなと思います。

費用対効果等の事情もあるとは思いますが、実際に循環バスを使っている保育園もあるとお聞きしたので、利用促進も含め重点的に進めていただければと思います。

小林教育長

私も、子どもアトリエにある絵を実際に見せていただいて、自分のノートなどに絵を描くといった小さな世界ではなく、もっと大きなところに絵を描くという経験は、おそらくここでなければ出来ないような気がします。しかも、指導していただく先生のもとで、そのような経験を子どもたちができるというのは、本当に素晴らしいことだと思います。やはりこのような場所がないと経験できないものであると改めて感動させられました。

寺島教育委員

議会でも度々取り上げられてきましたし、私も関心を持ってきましたが、庁用バスを活用したプログラムとしたことは大変評価できると思いますが、今回のプログラムの対象は公立の幼稚園・保育園なのですよね。サントミュージアは育成が基本理念になっているわけですので、できるだけ多くの子どもたちが経験しないと意味がないと思います。上田市の未来を担う子どもたちの育成ということであれば、したがって、何年間かの計画で、全園の子どもたちに味わってもらいたいと思います。制約はいろいろあると思いますが、発表の機会も含め、門戸を広げていただきたいと思います。

小野塚政策企画部長

ありがとうございます。

それでは最後に、市長からお願いします。

母袋市長

育成というお話がありましたが、私は子どもアトリエを作るに当たって、子どもを刺激する手段が重要と考えていましたし、感性創造力という言葉は何度も使ってきました。やはり、型にはまったキャンパスということではなくて、小さいうちから何となくでも思う存分描ける場もあるという子どもたちにとっての非日常というものが、感性創造力を伸ばすにはすこぶる大切な場だという想いで子どもアトリエを設けたつもりであります。

お聴きしたいのが、多く利用した子どもでも2～3回といった程度ですよ。1回来ただけで大きく子どもが変わるということはないと思うのですが、たとえば「もう一度行って描いてみたい」という声があったかどうか、或いは園において子どもたちに変化があったかどうか、そういった言葉を何か聴いているでしょうか。

滝澤市立美術館長

言葉ということであれば、子どもたちからはたくさん感想文をいただいています。感想文はもちろんこちらからお願いしているものではありません。園児たちからは率直な、楽しかったといった感想が書いてありまして、それを館内に貼り出したりしております。

母袋市長

そういう双方向の、行ったり来たりのコミュニケーションが重要だと思います。今後とも大いに頑張ってもらいたいと思います。

小野塚政策企画部長

ありがとうございます。

引き続き取り組んでいく事業であります。保育園だけでなく学校にも広がっていくと良いなと思っております。

本日の協議事項は以上です。

最後に次回の予定ですが、第3回は3月8日木曜日の午後といたします。議題は、今年度事業の進捗状況を中心に行います。

以上で閉会とします。ありがとうございました。